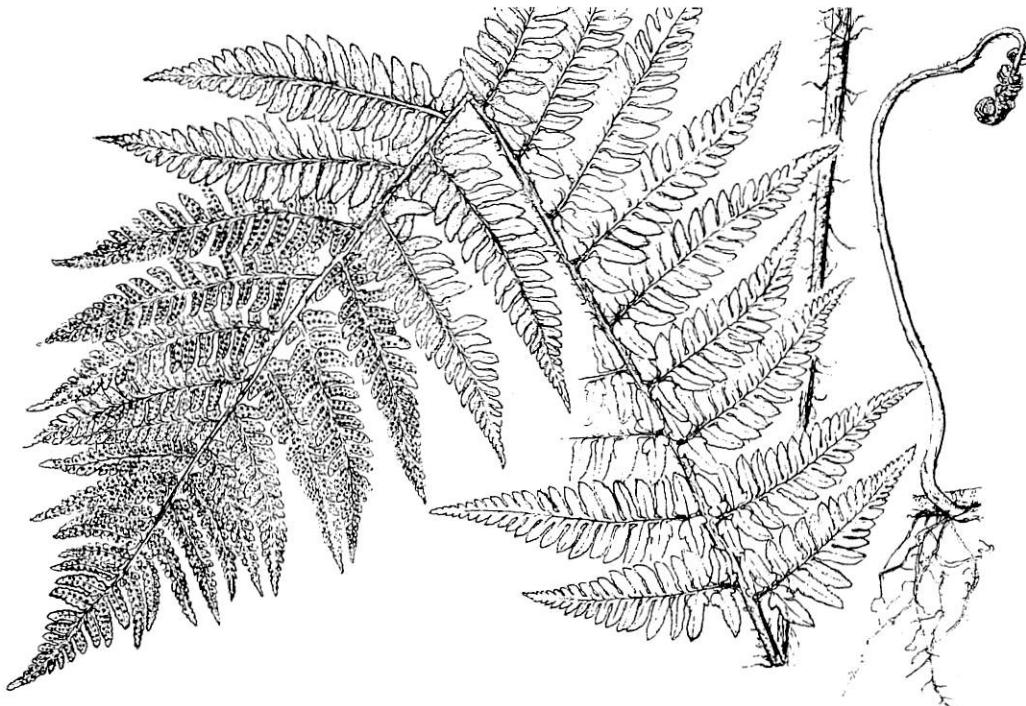


協議会ニュース 139号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 2013. 5



オクマワラビ（オシダ科）

杉澤 周子（奥三河支部）

総会報告P2
講演会レポート	尾張支部 森 功一.....P3
支部総会報告	東三河支部 寺本 和子/奥三河支部 森田 邦久 ·P4
	知多支部 平田 秀彦/名古屋支部 滝田 久憲 ...P5
	西三河支部 三田 孝.....P6
事務局よりP6
本の紹介	尾張支部 高谷 昌志.....P7
自然観察のヒント	名古屋支部 山田 千宏.....P8
私の活動紹介	西三河支部 石黒 豊広.....P9
理事会報告P10
理事会報告P11
行事案内・編集部p12
■ 折込)観察会保険について	

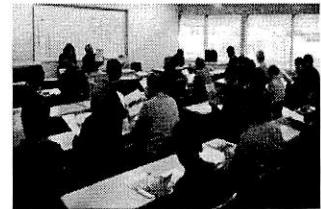
平成 25 年度通常総会

日時：平成 25 年 3 月 20 日（水・祝）13:00～14:30

場所：名古屋国際センター

●開会

大谷 敏和会長の挨拶に続き、総会の議長に降幡 光宏副会長、書記に石原 則義会員を選出し、議案の審議をすすめました。



▲ 総会当日の様子

●第 1 号議案 平成 24 年度事業報告

浅井 聰司事務局長から総会資料に基づき事業報告があり、拍手多数で承認されました。

●第 2 号議案 平成 24 年度決算・監査報告

吉田 雅記会計から総会資料に基づき決算報告がありました。河江 喜久代監事から適正に処理されているとの監査報告があり、拍手多数で承認されました。

●第 3 号議案 平成 25 年度事業計画

浅井事務局長から総会資料に基づき事業計画が提案され、拍手多数で承認されました。

- ・支部長交代挨拶 知多支部長 南川 陸夫 東三河支部長 寺本 和子
- ・あいちの観察会
- ・研修会
- ・自然観察指導員講習会 9/7 (土)・8 (日) 犬山ユースホステル (犬山市)
- ・講演会 3/20 (水・祝) 通常総会後に実施
- ・協議会交流の日 (担当西三河支部)

日程：11/30 (土)

場所：昭和の森 (豊田市藤岡町)

集合：午前 10:00 交流館駐車場 (No.6 駐車場)

内容：午前 観察会 / 午後 交流会

- ・タケ調査完成年度
- ・E S D あいち・なごやパートナーシップ事業へ「あいちの自然観察会 (6回)」を登録。
- ・機関誌「協議会ニュース」発行 3月 5月 8月 12月
- ・理事会 開催日の確認
3/20 (水・休) 5/5 (日) 7/15 (月・休) 11/23 (土・休) 2/11 (火・休)

●第 4 号議案 平成 25 年度予算案

吉田 雅記会計から総会資料に基づき予算案が提案され、拍手多数で承認されました。

●その他

- ・タケ調査について各支部の到達状況

<総会終了後講演会開催>

演題 「季節的に長距離を移動する昆虫の生活・アサギマダラ、ウスバキトンボ、アキアカネなど」

講師：金沢 至氏 (大阪市立自然史博物館 昆虫担当主任学芸員)

※総会後茶話会を開き、会員同士の交流をはかりました。また講演会終了後、講師を囲んで有志による懇親会が行われました。
(記録 石原)

「季節的に長距離移動する昆虫の生活」を聞いて

尾張支部 森 功一

ムシに興味があり面白そうな演題でしたので聞きに行きました。

1 アサギマダラの移動について

1981年、長年続けられたマーキング調査の結果、長距離の移動が確認され、その後徐々に再捕獲の件数は増えているということです。アサギマダラは名古屋市内でも見られますが、普段あのユルユルとした飛び方をするチョウが、中国・台湾にまで移動することが実証された時は、担当者のみならず多くの人にとって感激だったことでしょう。

あの小さな体のどこにそんなエネルギーが潜んでいるのか、方向感覚はどうなっているのか、興味は尽きません。それは人智の及ばないところなのかも知れません。

2 東海地方の移動ルートについて

愛知県の渥美半島の先端、伊良湖岬が東海地方の移動地点です。ここには北海道、本州の昆虫が集まるかもしれないともいわれています。これから調査の進展が待ち遠しいです。

3 ウスバキトンボの移動について

ウスバキトンボは、毎年東南アジアの熱帯地方から海を越えて、日本にやって来ます。日本で世代交代を繰り返しますが、寒さに弱く、冬には全て死滅すると言われていました。

しかし、冬までに南下するのではないかというパラダイムを転換する考え方が出てきました。



▲ 講師 金沢 至氏

まだ実証されてはいないようですが、これまた今後の調査活動に期待したいものです。だんだん硬くなる頭の働きを柔軟に維持しなくてはついていけないようです。

4 アキアカネの減少について

アキアカネは、かつてはどこにでも多数見られましたが、1980年以降激減し、2000年からはその傾向が加速されているとのことです。この話を聴いて、ミツバチの大量死が浮かびました。その原因はいろいろ言われますが、直接的原因はネオニコチノイド系の農薬にあるのではないかという指摘があります。この農薬の特徴は浸透性、残効性、神経毒性で昆虫類、生態系、さらには人への影響が懸念されています。日本では欧米に比べて農薬への規制が緩く、早急な対応が必要だと感じました。



東三河支部総会

東三河支部 寺本 和子

平成 25 年 2 月 3 日(日)に、東三河支部（N P O 法人東三河自然観察会）の総会が開催され、出席者は 32 名。委任状が 34 名でした。

今回の総会では、会長、副会長など役員が大幅に交代しました。役員が交代しても、会の運営は当面今までの内容を踏襲し、問題点があれば急がず、少しづつ改善してゆくことにしています。また、役員の年齢層が年々上昇しているため、今後は若い会員に会の運営に今まで以上に関わってもらうことや、新規に若い入会者を確保することも重要な課題だと認識しています。

25 年度の行事は昨年と同様、年 4 回の地域観察会を行うとともに、昨年休止していた定例観察会を復活し、3 月から 12 月まで毎月 1 回、豊橋公園で開催することになりました。このほか県営東三河ふるさと公園の定例観察会、新城総合運動公園の観察会など、いくつかの観察会の受託も行っていく予定です。

総会後には、中西 正会員の「地球一周で見た自然とインタープリター」と題する講演が行われ、世界各地にはびこる外来種の話や、それぞれのお国柄の自然解説員の話などを興味深く聴かせていただきました。その後、懇親会が行われ、楽しい一時を過ごした後、散会しました。

■東三河支部 平成 25 年度役員

支部長：寺本 和子

副支部長：影山 博史（兼事務局）、岩崎 員郎（兼会計）



奥三河支部総会

奥三河支部 森田 邦久

2 月 3 日（日）、平成 25 年度支部総会が新城観光ホテルを会場に開催されました。奥三河支部（奥三河自然保護研究会）は会員数 28 名ですが、当日は他の会と重なったということもあり 8 名の参加でした。総会では、小山会長の挨拶に続いて、事務局から 24 年度の事業報告、会計報告があり承認されました。その後、25 年度の事業計画について話し合われました。奥三河支部は、都市部から遠いという地域性もあり、毎回参加者が少ないという課題があります。なんとか大勢の人に参加していただけるように内容をいろいろ工夫しようといった発言もあり、以下のような活動計画が決まりました。

① あいちの自然観察会（支部観察会） 5 月 25 日（土）集合 10 時 00 分

場所 田んぼの生き物観察 四谷の千枚田

集合場所 千枚田入り口駐車場

② 支部研修会 10 月 27 日（日）集合 9 時 30 分

場所 凤来寺山の穴場を探検しよう 巨木、巨岩、不動滝（利修千人護摩所）

集合場所 凤来寺山参道入り口 合鏡駐車場

総会後の懇親会では、和やかな雰囲気の中にも最近の野生動植物の話題から、自然観察会のあり方まで率直な意見交換もあり、有意義な時間となりました。

■奥三河支部 平成 25 年度役員

支部長：小山 舜二

副支部長：小椋 克好

庶務会計（事務局）：森田 邦久

知多支部総会

知多支部 平田 秀彦

平成 25 年度知多支部総会は 2 月 16 日（土）9 時 40 分から阿久比町勤労福祉センターで 33 名（欠席委任状 53 名）の参加で開催された。

はじめに降幡代表から「30 周年記念など年間 150 以上の行事が開催できた。COP10 後の生態系ネットワークとの関わりで地域や企業との連携もでき始めている」と挨拶があり、出席者全員の自己紹介後、吉房会員を議長に村瀬会員を書記に選出し議事を進めた。

事業全般、各ブロック、研修会、調査、HP、年報、森税事業等について各担当からの報告があり、「指導員の高齢化、参加者を増やす策、安全の確保」等について意見交換をした。引き続き会計報告がなされ、次いで H25 年度役員が選出され、事業計画案と予算案が審議承認された。南川陸夫新代表は「安全で肩のこらない観察会を」と挨拶した。最後に榎原正躬副代表から「本物と向き合って、おしゃべりをする。スライドや写真でなく、ホンモノを『ネタ』に観察会を開いていこう」との言葉で閉会した。

■知多支部 平成 25 年度役員

代表：南川 陸夫

副代表：榎原 正躬（年報・HP 担当）、榎原 靖（研修担当）、平田 秀彦（庶務）

会計：森田 琢磨 会計監査：山本 辰巳、大野 耕也

調査担当：浅井 一光（須賀川の自然）



▲ 総会当日の様子

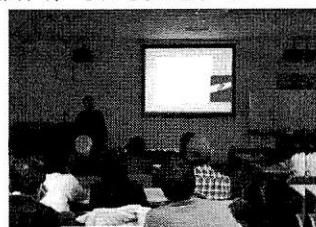
名古屋支部総会

名古屋支部 滝田 久憲

平成 25 年度名古屋支部総会が 2 月 24 日（日）午後 2 時から、栄のナディアパーク・デザインセンタービル、名古屋市市民活動推進センター集会室で開催されました。当日の出席者は 29 名（欠席委任状 38 名）で、支部長のあいさつの後、議長に萩原 育夫会員が選出され、議事が進められました。最初に平成 24 年度の事業報告がなされ、支部設立 30 周年事業やその関連事業などが報告されました。続いて会計報告がなされ、共に承認されました。なお、当支部が行っている受託事業などもこれまで別会計で行っていましたが、今後は会計の費目にあげることになりました。

また、今年度は役員の改選期に当たるということで、執行部からの提案以外には立候補者がいないことから、執行部提案の新体制が信任されました。今回の改選では、これまで課題となっていた役員の交代や新しい会員の参加などが実現しました。平成 25 年度の事業計画、それを実施するための事業予算が議論され承認されました。

総会終了後、豊田市矢作川研究所総括研究員である間野隆裕氏により「蛾の生態と魅力」と題した講演会が行われ、蛾の不思議な生態が紹介されました。講演終了後は茶話会を催し、参加者が交流しました。



■名古屋支部 平成 25 年度役員

支部長：滝田 久憲

副支部長：石原 則義、大澤 淳二、近藤 記巳子、高松 一史、滝川 正子、

布目 均、萩原 育男、巾 賢治、堀田 守

会計：新山 雅一

▲ 講演会の様子

西三河支部総会

西三河支部 三田 孝

日 時：平成 25 年 2 月 2 日（土） 14:00～17:00

場 所：岡崎竜美丘会館

平成 25 年度の支部総会は会員 19 名の参加を得て開かれました。平成 24 年度行事報告、会計報告のあと、平成 25 年度役員の選出、活動計画の検討を行いました。

役員人事では幹事の山下 真志会員が退任し、新任広報として鈴木 寛之会員を選出しました。

■平成 25 年新役員

会長：三田 孝

副会長：奥居 達朗 馬場 隆之

事務局・会計：深見 弘

広報：石川 正雄 鈴木 寛之

監査：山原 勇雄

幹事：石黒 豊広 水谷 宗保 河江 喜久代 松山 太 山本 博美

新年度の観察会については支部主催観察会を 4 月旭高原元気村（豊田）、いきものふれあいの里（西尾）、5 月香嵐渓（豊田）、6 月北山湿地（岡崎）、10 月松平郷（豊田）、11 月段戸裏谷（設楽町）の 6 回を企画しました。会員が主催する地域定例観察会は 6ヶ所の観察会（くらがり渓谷、おかざき自然体験の森自然観察会、おかざき自然体験の森植物観察会、岡崎中央総合公園自然観察の里、平戸橋、西尾いきものふれあいの里の観察会）が継続されます。会員研修会は 7 月に佐久島で 1 泊 2 日にて行う予定です。

総会後の講演は、昨年世界一周の船旅をされた中西 正会員に「地球一周で見た自然とインタープリター」についてお話をいただきました。

その後東岡崎駅近くで懇親会を持ち、交流を深めました。

なお、観察会の詳細はホームページ (www.nishimikawa.com) をご覧ください。



事務局より

■訂正のお願い

「協議会ニュース」前号No.138において、記載ミスがありました。下記の通り訂正し、お詫びいたします。

p 7 下段 「JAF 親子ふれあい自然体験」

本文 2 行目 誤) 講師：長谷川 努 → 正) 長谷川 洋二

本文 9 行目 誤) 観察された生き物 テッポウエビ → 正) テナガエビ

■総会資料は事前に会員のみなさんに目を通していただくところを、事務局の段取りの不届きで事前送付がかなわず失礼をしました。今号に同封の総会資料に目を通していただき、協議会運営に一層の協力をお願いいたします。 (事務局 浅井)



本当は教えたくなかった

植物の秘密が分かる本

尾張支部 高谷 昌志

私の道楽は勉強です。知るは人生の喜びで、自分の子どもたちにも「世の中で一番楽しいことは勉強!」と言い聞かせてきました。

物理、地学、生物、歴史などの本をかじり読み、たどり着いたのは単なる“物知りおじさん”ですが、そんな私が植物についておもしろいと感じた本をご紹介させていただきます。

○=出版中、△=中古入手可能、×=入手困難 ×(Amazon 調べ)。価格は私の購入時。

■植物の仕組みが分かる本

○小林正明「花からたねへ」(全国農村教育協会)¥2,500

サブタイトルに“種子散布を科学する”とあるように、移動の仕組みをタネの成り立ちから説明してある本です。

例えば毛を広げるタイプのティカカズラ、タンポポ、センニンソウ、ガマ、ススキなどのタネも、毛の起源は、種皮、がく、花柱などそれぞれ別であることが解説されており、「わた毛は風に乗るためのもの」だけだった知識を一段階ステップアップさせてくれます。

同様に翼型のタネ、動物利用、水、自力などでの散布についても写真や絵を多用してその成り立ちから解説してあり、種子散布のバイブルとも言える本です。

○清水晶子「絵でわかる植物の世界」(講談社サイエンティフィク)¥2,000

被子植物を中心に形態、光合成などの生活、花や種子などの生殖など植物の基本が網羅されています。私はこの本によりそれまで知らなかった“仮軸分枝”と“有限花序”“C₃ および C₄ 植物”“合成心皮”などの新知識も得ることができました。やや高度な内容で難しい項目もありますが、イラストで分かりやすく解説してあります。植物好きな人なら必携の一冊です。

■花と虫たちの関わりについての本

△田中肇「花の顔」(山と渓谷社)¥1,900

△田中肇「花と昆虫不思議なだましあい発見記」(講談社)¥1,600

花の色・形、香り、開花時刻なども虫や鳥の立場から見ると認識が大きく変わります。この分野での第一人者田中肇氏の本を二冊ご紹介します。

前者は 200 種類近くの花を四色に分けた上、一種ずつ解説しています。簡潔な解説文を補う細密な写真が素晴らしい、“百聞は一見”を実感できる本です。

後者は逆に、50 余種の植物を中心に花と昆虫の関わりを読み物としてじっくりていねいに解説しています。

■植物の能力を紹介する本

○多田多恵子「したたかな植物たち」(SCC) ¥2,200

身近な植物の驚くべきテクニックが次々と紹介されており、私は初版本を読み終えた後絶賛する手紙を出版社に送ってしまいました。木の実になぜ不味いものが多いか、など私の自然観察会での多くのネタがこの本にあります。

△多田多恵子「花の声」(山と渓谷社)¥1,900

「花の顔」と同様写真中心で文書は簡潔ですが、“街の草木が語る知恵”的なサブタイトルほどおり身近な植物のふしぎ発見が盛りだくさんです。

×蓮実香佑「植物という不思議な生き方」(PHP 研究所)¥1,300

多田氏がどちらかと言うと植物の生態を外見的な面から捉えているのに対し、蓮実氏は“毒ガス攻撃・菌の支配・エチレンガス・アントシアニン”など細胞レベルからも解説しています。根粒菌の窒素固定をキーティーハーのお色気変身シーンに例えるなど肩が凝らない文体で、小難しい題材も楽しみながら理解することができます。



自然観察のヒント

虫を推理！泥遊びは好き？

名古屋支部 山田 千宏

【虫の巣】

虫の「巣」というと、何を思い出しますか。すぐに思い浮かぶのは、ミツバチやスズメバチの巣でしょうか。何匹ものハチが群れ、集団で幼虫を育てる場。時に情報を交換し、夜はそこで寝る。いわば、人にとての家ですね。しかし、そうではなく、成虫の生活しない、幼虫のための隠れ家を「巣」と呼ぶのは昆虫だけでしょうか？



上の写真を見て下さい。このようなものを見たことがあるという方が多いのではないかでしょうか。壁や工作物への泥細工、多くは、この仕業からドロバチと名付けられた狩りバチの仲間の痕跡です。ハチは素早く飛び回り、着地したときも動きがせわしく、じっくり観察することが難しい虫です。それでも、このような「巣」の痕跡を探すこと、活動の一端を知ることができます。

【巣の作り方】

エサを与えられた幼虫だけが泥の工作物の中で成長する形の巣は、既存の筒などを使った巣から集団生活をする巣へと進化する途中の段階ともいわれます。孤独性狩りバチの中で、クモバチ（旧ベッコウバチからの改称）やドロバチ、シガバチの仲間の一部は、壁面などの構造物を利用して土の

巣を作るようになりました。それが発展したもののが、ミツバチなどの巣になるというのです。このあたりの進化については、昨秋出版の『狩蜂図鑑』（全国農村教育協会）に詳しく載っているので、そちらをご覧下さい。ちなみに、この図鑑、何より生態写真がすばらしく、一見の価値あります。

巣は、初夏から真夏にかけて作られます。ドーム状のもの、ひも状にしたものと積み重ねているもの、襟状の入口を持つ球体等、種によって形が決まっています。壁面に付いたもの、石の上に作ったもの、天井にあるものと、場所もいろいろです。作る場所で微妙に形を変える種もあるようです。いくつかの部屋をさらに泥のドームで被った巣を作る種など、気を付けて観察すれば、とても変化の多いものであることがわかります。下の写真は、建築物の再塗装の折に巣が一緒に塗り込められてしまったもののようです。



黒い地味なハチですが、狩りバチである以上、刺す能力はあります。が、攻撃的ではなく、人が刺された例は聞いたことはありません。ほとんど毒はないらしいのですが、ハチを素手で押さえたりしないようにしましょう。

私の活動紹介



西三河支部 石黒 豊広

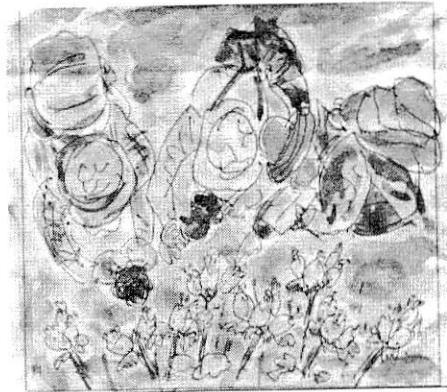
1. 指導員への道

私が自然観察にはまり込むきっかけはと思い返してみると、どうやら長女が小学校6年のときボランティアリーダーなるものの付き合いで蒲郡の相楽山荘へハイキングに行った時がスタートのようである。春うらら子供とともに山道をのんびりゆったり、指導の先生から道路脇の植物の話を聞きながらの道中「コ～キコ～キ」谷あいに響くのんびりした鳥のさえずりのようである。初めて聞く耳慣れない鳴き声、子供の頃身近な鳥を見るのが好きだったことを思い出す。その声の主が気になりバードウォッチングにはまるのである。次はあの鳥が食べている木の実は草の実は？で、そして自然に関する講座の受講や自然観察会への参加である。

その時出会った指導員に驚嘆し、短絡な私は「あ～云う人」になりたいと思うのであるが… 知れば知るほど奥深い世界で「あ～云う人」には近づくどころか遠ざかるばかり。無理²、参加者でと腹を決めたころ、現在担当のくらがり渓谷の前任者の口車？にうっかり乗せられ、2003年指導員講習を受講。緑の腕章をはめることになってしまうのであった。

2. 活動の経緯

その後突如「くらがり渓谷」の担当今年からお願いしますと前任者から引き継ぐことになるのである。前任者と同じようにはできそうもないし、



石黒にできる事しかできないと始め、早や5年が経過することになった。

3. 石黒のできることって？

「あ～云う人」には無理と悟った石黒は自分の思う楽しいを伝えられればいいじゃん。分からることは「分からない」でいいじゃん。皆で調べて教え合えばいいじゃん。私には指導なんておこがましいのである。

4. イラストを描くってこと

そんな中の楽しいと思う一つが自然の中で描くイラストなんですね。下手な絵でも写真と違いじっくりと細部まで見ないと書くことができないこと、植物が生えている環境にしばらく身を置くことにより生き物の気配、光の廻り具合や空気感が… 自然とともに生きてるって感じてもらえたらしいなって思っている。

でもそれを参加者全員に強要することになつては独りよがり、少しでもそんな思いと楽しい雰囲気が伝われば良いかなと終了後にさらっとイラストに仕上げる。
※上図は13/3/10のくらがり渓谷の様子。

5. 観察会便りを作ること

開催地岡崎市への報告書と記録として、また観察会の雰囲気を伝え次回参加の動機付けとなればと続けている。ちょっと大変だけど！

6. 楽しいが一番

“道草好きのおじさん”でもやれるのである！

おわり

平成 24 年度 第 5 回理事会

日 時：2月 11 日（土・祝）13:30～16:30

場 所：名古屋市音楽プラザ

出席者：降幡、星野、浅井、石原、近藤、久米、吉田、布目、永田、森田、斎竹、滝田
三田、河江

詳細は通常総会資料参照

議案 1 平成24年度事業報告の確認

- ・あいちの自然観察会
- ・支部研修会
- ・講演会
- ・フォローアップ研修会
- ・タケの研修会
- ・タケの調査
- ・協議会交流の日
- ・J A F 親子自然ふれあい自然体験
- ・協議会のパンフレットの作成
- ・協議会ニュースの発行
- ・ホームページ
- ・理事会
- ・業務負担金
- ・各担当から



議案 2 E S D 対応

議案 3 平成 25 年度事業（案）の検討および確認

- ・あいちの自然観察会
　　テーマ「子どもたちとともに田んぼ・畑の周りの生き物から学ぶ」
- ・支部研修会
- ・自然観察指導員講習会
- ・タケの調査完成年度
- ・協議会交流の日
　　新人歓迎会も兼ねる
- ・次年度理事会
- ・総会、講演会について

その他

- ・決算と予算については、臨時理事会で確認予定
- ・総会、講演会の役割分担は臨時理事会で確認予定
- ・今後の予定（第 1 回理事会、県協議会総会）

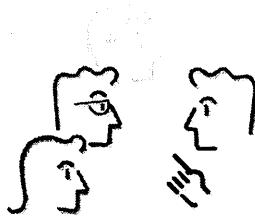
平成 25 年度 第 1 回理事会

[詳細は通常総会資料参照]

日 時：3月 20 日（水・祝） 10:00～12:00

場 所：名古屋国際センター

出席者：大谷、降幡、星野、浅井、石原、近藤、久米、吉田、布目、永田、森田、石川、齋竹、南川、滝田、三田、寺本、河江



議案 1 第 1 号議案 平成 24 年度事業報告の確認

議案 2 第 2 号議案 平成 24 年度収支決算報告の確認

議案 3 第 3 号議案 平成 25 年度事業計画案の確認

・あいちの自然観察会

・研修会

・自然観察指導員講習会

9月 7 日（土）、8 日（日）一泊二日 場所：犬山ユースホステル（犬山市）

・講演会 3月 20 日（水・祝）14:50～ 場所：名古屋国際センター（3F 第二研修室）

演題「季節的に長距離を移動する昆虫の生活・アサギマダラ、ウスバキトンボ、アキアカネなど」

講 師 金沢 至 氏（大阪市立自然史博物館 昆虫担当主任学芸員）

・協議会交流の日

11月 30 日（土） 場所：昭和の森（豊田市藤岡町）交流館駐車場（No. 6 駐車場）

集合時間：午前 10:00、内容：午前中 観察会、午後 交流会、担当：西三河支部

・タケ調査完成年度

・E S D あいち・なごやパートナーシップ事業に「あいちの自然観察会（6回）」を登録

・機関誌「協議会ニュース」発行（3月、5月、8月、12月）

・理事会 開催日の確認

第 1 回 3月 20 日（水・祝） 10:00～ 場所：名古屋国際センター

第 2 回 5月 5 日（日） 13:30～ 場所：名古屋支部担当

第 3 回 7月 15 日（月・祝） 13:30～ 場所：尾張支部担当

第 4 回 11月 23 日（土・祝） 13:30～ 場所：知多支部担当

第 5 回 2月 11 日（火・祝） 13:30～ 場所：名古屋支部担当

・業務負担金

・パンフレット 5,000 部の配布方法

・役員の異動

・総会の役割分担

議案 4 第 4 号議案 平成 25 年度予算案の確認

その他

・稻武町野外合宿受託の件

・協議会ニュース 5月 1 日発行 支部総会報告原稿締切

・保険について郵便振替口座番号の件

・ホームページの連絡先のお願い

<< 行事案内 >>



■平成25年度 あいちの自然観察会(平成25年4月10日現在の7月までの情報)

日 時	内 容	実 施 場 所	集 合 場 所	担 当
5/25(土) 10~14	棚田にすむ いきものたち	四谷千枚田 (新城市)	四谷千枚田 駐車場 9:30	奥三河支部
6/8(土) 9~12	田んぼのまわりの 生きものたち	瀬戸市立掛川小学校 ※注意：日程変更	定光寺公園 第3駐車場	尾張支部
6/23(日) 9:30 ~11:30	水田と畑の良い虫 悪い虫の観察	常滑市大谷	常滑市 南陵公民館 駐車場	知多支部 降幡 竹内匡
7/14(日) 10~15	田んぼに生える 野草観察	守山区才井戸流れ &周辺の田畠 (野田農場周辺)	ゆとり～と ライン大曾根駅 9:10	名古屋支部 萩原

■平成25年度 支部研修会(平成25年4月10日現在の7月実施までの情報)

日 時	内 容	実 施 場 所	集 合 場 所	担 当
5/6(月・ 休)10~14	ハマヒルガオなど 海浜植物観察	常滑市鬼崎海岸	名鉄蒲池駅 9:30	名古屋支部 萩原
5/25(土) ~26(日)	つぐ高原	愛知県北設楽郡 津具	東海市大池公 園テニスコート 7:00	知多支部 牧野
6/22(土) 9~	干潟の生きものの 観察	豊橋市六条潟	豊橋市総合体 育館駐車場	東三河支部
7/20(土) ~21(日)	海の生きもの観察 エキムカシナバチ観察	西尾市佐久島	一色港渡船場 9:20	西三河支部 三田

編集部から

■心地良い季節になりました。生きものたちが躍動する季節です。会員のみなさんがフィールドで見聞きしたことを是非レポートし、「協議会ニュース」に投稿ください。みなさんからの原稿をお待ちしています。

編集スタッフ
岡田 雅子 久米未祐
近藤 記巳子 新山 雅一
山口 健

発送スタッフ
名古屋支部有志

「協議会ニュース」編集部
〒457-0006 名古屋市南区鳥栖2-6-17
桜本町CH101

近藤 記巳子
TEL / FAX 052-822-7460
E-mail : konkimi@nifty.com

■ 愛知県自然観察指導員連絡協議会(あいち自然観察会)事務局
〒464-0096 名古屋市千種区下方町7-3 石原則義

TEL / FAX 052-711-3087 E-mail : noriyoshibob@yahoo.co.jp

■ Web Page : <http://naichi.net/>

愛知県自然観察指導員連絡協議会(あいち自然観察会)機関誌「協議会ニュース」139号発行

平成 25 年度 通常総会資料

愛知県自然観察指導員連絡協議会 平成 25 年 3 月 20 日 場所 名古屋国際センター

第 1 号議案 平成 24 年度事業報告

1 あいちの自然観察会(各支部担当)

5月 6日(日) ため池の自然観察と生物多様性	蟆池周辺(名古屋市緑区)	参加者 23名 指導員 14名	名古屋
5月 19日(土) 初夏の里山で自然を感じよう	海上の森(瀬戸市)	参加者 14名 指導員 12名	尾張
5月 20日(日) 鳳来寺博物館の見学とモリアオガエルの産卵	(新城市鳳来)	参加者 0名 指導員 8名	奥三河
6月 17日(日) 福山川の生き物は今年も元気かな	福山川(阿久比町)	参加者 3名 指導員 8名	知多
8月 25日(土) 川の生物を捕まえて学ぶ	逢妻女川(豊田市)	参加者 3名 指導員 4名	西三河
9月 29日(土) 月明かりでシラタマホシクサを見よう	草毛湿原(豊橋市)	参加者 29名 指導員 30名	東三河

2 研修会(各支部担当)

5月 26/27日(土・日) 大台ヶ原の自然を訪ねて	大台ヶ原(三重県大台町)	参加者 19名	知多
7月 8日(日) 石仏の里で動植物を見よう	大山田神社・人登山(長野県下條村)	参加者 10名	奥三河
9月 17日(月・祝) キノコの研修	春日井少年自然の家周辺(春日井市)	参加者 19名	尾張
9月 30日(日) 秋の山野草とエンシュウツリフネソウの観察	茶臼山(豊根村)	台風のため中止	
10月 20日(日) 自然のものを使ったクラフト作り おかざき自然体験の森(岡崎市)	参加者 6名	西三河	
11月 4日(日) 蛇紋岩地域の植物	雨生山(新城市)	参加者 15名	東三河

3 講演会 3月 20 日(火・祝) 名古屋国際センター

演題「漂着物の観察から自然科学へ」 講師 長崎大学教育学部教授・漂着物学会会長 中西弘樹氏

4 フォローアップ研修会 10月 7・8日(日・祝) 海上の森センター(瀬戸市)

川の生き物の調査方法 講師 足立高行、大谷敏和

5 タケの研修会 5月 13 日(日) 平和公園(名古屋市千種区) 講師 鬼頭保 参加者 24名

6 タケの調査

7 協議会の日 11月 23 日(金・祝) 内容 自然観察会 参加者 60名 自然物を使った工作 展示会 交流親睦会 担当 知多支部

8 協議会のパンフレットの作成

9 協議会ニュースの発行 3月 5月 8月 12月

10 ホームページの更新および管理運営

11 受託観察会 J A F 親子自然体験イベント 8月 25 日(土) 木曽三川公園 138 タワー

12 理事会 3月 20 日(火祝) 5月 5日(土祝) 7月 16 日(月祝) 11月 24 日(土) 2月 11日(日祝) 3月 5日(火)

第2号議案 平成24年度収支決算報告 (H24年2月1日～H25年1月31日)

収入

科目	予算額	決算額	差引	決算/予算(%)	備考
会費	735,000	714,500	▲ 20,500	97%	会員 356(内家族 5)名
保険料	120,000	87,480	▲ 32,520	73%	保険料(40円×2,219名)、3,000名
寄付金	2,000	1,160	▲ 840	58%	カンパ
受託金	0	40,000	40,000		JAF受託事業
雑収入	1,299	16,111	14,812	1240%	H23協議会加入者通信連絡費(500円×32名)、利息 111円
前期繰越金	1,531,701	1,531,701	0	100%	
合計	2,390,000	2,390,952	952	100%	

支出

科目	予算額	決算額	差引	決算/予算(%)	備考
自然観察会費	170,000	95,837	74,163	56%	保険料、協議会パンフレット作成未完
調査費	20,000	0	20,000	0%	
研修会費	100,000	11,000	89,000	11%	竹の研修会、きのこ研修会謝金
機関誌作成費	360,000	213,805	146,195	59%	印刷代、送料、封筒・切手等
受託事業費	0	36,000	36,000		JAF受託事業
事務費	295,000	251,030	43,970	85%	総会、理事会開催、HP運営、理事等事務費他
次期繰越金	1,445,000	1,783,280	▲338,280	123%	
合計	2,390,000	2,390,952	▲ 952	100%	

監査報告 関係帳簿や領収書に照合したところ、適正に決算されていたことを報告いたします。

監査 河江喜久代 横原 靖

第3号議案 平成25度事業計画

1 あいちの自然観察会

4月 27日(土) 9:00~12:00 田んぼの生き物 ネイチャーセンター前 9:00	西尾いきものふれあいの里(西尾市) 西三河支部担当
5月 25日(土) 10:00~14:00 棚田にすむ生き物たち 四谷千枚田駐車場 9:30	四谷千枚田(新城市) 奥三河支部担当
6月 8日(土) 9:00~12:00 烟と田んぼのまわりの生き物たち 定光寺第3駐車場 9:00 集合	瀬戸市立掛川小学校(瀬戸市) 尾張支部担当
6月 23日(日) 9:30~11:30 水田と畑の良い虫と悪い虫の観察 常滑市南陵公民館駐車場 9:30 集合	大谷(常滑市) 知多支部担当
7月 14日(日) 10:00~15:00 田んぼに生える野草の観察 ゆとりーとライン大曾根駅 9:10 集合	才井戸流れと周辺の田畠(名古屋市守山区) 名古屋支部担当
11月 24日(日) 9:30~ 稲刈り後の土の中の生き物たち(仮題) 滝頭公園駐車場 9:30 集合	滝頭公園(田原市) 東三河支部担当

2 研修会

5月 6日(月・祝) 10:00~14:00 ハマヒルガオなどの海浜植物の観察 名鉄蒲池駅 9:39	鬼崎海岸(常滑市) 名古屋支部担当
5月 25~26日(土・日) 研修先 未定 (詳細はのちほど連絡いたします) 大池公園(東海市)7:00 集合	知多支部担当
6月 22日(土) 9:00~ 千潟の生き物の観察 豊橋市総合体育館駐車場	六条潟(豊橋市) 東三河支部担当
7月 20~21日(土・日) 海辺の生き物とエサキムカシハナバチの観察 一色港渡船場 9:20	佐久島(西尾市) 西三河支部担当
8月 31日(土) 伊吹山の生き物(高山植物、昆虫など) (詳細はのちほど連絡いたします)	伊吹山(滋賀県伊吹町) 尾張支部担当
10月 27日(日) 9:30~鳳来寺の高徳林道を歩く巨岩、巨木、不動滝を見る 合金駐車場 9:30 集合	鳳来寺(新城市) 奥三河支部担当

3 自然観察指導員講習会 9月 7, 8日(土・日)一泊二日 犬山ユースホステル(犬山市)

4 講演会 3月 20日(水・祝)14:50~

演題 「季節的に長距離を移動する昆虫の生活-アサギマダラ、ウスバキトンボ、アキアカネなど-」
講師 金沢至氏 (大阪市立自然史博物館 昆虫担当主任学芸員)

5 協議会交流の日 11月 30日(土) 場所 昭和の森(豊田市藤岡町) 交流館駐車場 (No. 6駐車場)

集合時間 午前10:00 午前中 観察会 午後 交流会

6 ESDLあいち・なごやパートナーシップ事業へ、あいちの自然観察会(6回)を登録する。

7 協議会ニュース発行 3月 5月 8月 12月

8 ホームページの更新および管理運営

9 理事会 第1回 3月 20日(火・祝) 10:00~

第2回 5月 5日(日・祝) 13:30~(名古屋支部)

第3回 7月 15日(月・祝) 13:30~ 講習会について、協議会交流の日について (尾張支部)

第4回 11月 23日(土・祝) 13:30~(知多支部)

第5回 2月 11日(火・祝) 13:30~(名古屋支部)

10 タケの調査 最終年 報告書の作成

第4号議案 平成25年度予算 (H25年2月1日～H26年1月31日)

収入

科 目	予 算 額	24年度決算額	差 引	備 考
会 費	743,000	735,000	8,000	会員376(内家族6)名分(@2000×370+@500×6)
保険料	120,000	120,000	0	保険料(観察会徵収分@40×3000人分)
寄付金	2,000	2,000	0	
受託金	0	0	0	
雑収入	16,000	1,299	14,701	H25加入者通信連絡費(@500円×30名)
前期繰越金	1,783,280	1,531,701	251,579	
合 計	2,664,280	2,390,000	274,280	

支出

科 目	予 算 額	24年度予算額	差 引	備 考
自然観察会費	170,000	170,000	0	保険料(@40×3000人)、協議会パンフレット作成等
調査費	20,000	20,000	0	タケの分布調査等
研修会費	100,000	100,000	0	講師謝金、会場費等
機関誌作成費	360,000	360,000	0	発行回数年4回、編集会議、印刷代、送料、封筒代等
受託事業費	0	0	0	
事務費	295,000	295,000	0	総会、理事会開催、HP運営、理事等事務費他
次期繰越金	1,719,280	1,445,000	274,280	
合 計	2,664,280	2,390,000	274,280	

自然観察会のレクリエーション傷害保険について

1. レクリエーション保険の主旨

自然観察指導員は、NACS-J の「自然観察指導員災害保障制度」で、活動中の傷害事故に対し保障がされる仕組みができます。しかし、自然観察会参加者はこの制度の対象ではありません。観察会ごとに対応することになりますが、事務手続きが大変です。そこで協議会では、レクリエーション傷害保険を協議会で包括契約しています。事務が比較的簡素化されて方が一の事故に備えることができますので、ご利用ください。

2. 1日1人あたりの保険料 40円

3. 内容

◆保険種類:普通傷害保険(行事参加者の傷害危険担保特約付普通傷害保険)

◆契約方式:レクリエーション傷害保険(行事種目 自然観察会およびクラフト教室など)

◆保険金額:(1人あたり)死亡・後遺障害 600万円 入院保険日額 5,000円

通院保険日額 3,000円

◆保険期間:毎年4月1日～翌年3月31日までの1年間

◆精算方式:包括契約・毎月報告一括精算

◆被保険者:愛知県自然観察指導員連絡協議会が実施する自然観察会およびクラフト教室など備え付け名簿記載の者すべて

◆保険の範囲:自然観察会に参加するため所定の場所に集合し、参加者名簿記載から所定の解散地で解散するまでの、責任者の管理下にある期間

※1)保険の対象者:自然観察会の一般的な参加者とするが、指導員を含めても差し支えない。含める場合、参加者名簿(保険対象)に加えて毎月報告が必要。参加者名簿は事故があった場合提出することになるので、少なくとも氏名と住所と電話番号が必要。

※2)参考:NACS-J自然観察指導員の保険

死亡保険金500万円、入院保険日額3,500円、通院保険日額2,000円。

指導員を当保険に含めるかどうかは各観察会で決定。

※3)対象となる事故:保険の対象は「自然観察会およびクラフト教室などの傷害」であり、有毒植物の誤飲や鋸・鎌を使っての作業中の事故、山岳登はんはレクリエーション保険の対象外。熱中症など病気と思われるものは含まない。不明な点は保険担当に相談ください。

4. 参加者数の報告と精算:毎月、保険対象参加者数を翌月10日までに、E-Mail またはFAXで連絡。保険対象外の指導員の数は、備考欄へ記入。

年度末3月の観察会終了後、前年4月から3月までの保険対象参加者数を集計し、×@40円を振込み。郵便振替口座:00820-9-6546 口座名義:愛知県自然観察指導員連絡協議会

5. 事故の場合の事務:事故が発生した場合は翌日までに下記保険担当者に状況を連絡。

・ケガをされた方(受傷者)の氏名、住所、電話番号、日中の連絡先、生年月日、性別

・事故日時と状況:事故の日時、場所、ケガの箇所など。

参加者名簿(受傷者が当日の観察会の参加者であることを示す)をご提出ください。

保険担当者と連絡がとれない場合、下記保険代理店へ連絡いただいても結構ですが、必ず後ほど担当者にも連絡ください。

保険代理店 富士オフィス&ライフサービス (株) 052-746-3001

保険金は治療終了後受傷者が所定の用紙で申告し、指定の口座に振込まれます。

健康保険などは使用した方が有利です。

※被害者への対応は誠意を持って行ってください。

■連絡先

愛知県自然観察指導員連絡協議会

保険担当理事 布目 均 (平成25年度現在)

E-Mail n-1104@yk.commufa.jp Tel & Fax 052-771-0396

◆自然観察会の保険についての内容を、昨年より折り込み形式としました。前回の誌面に記載ミス、また保険代理店の変更があり、それぞれ訂正し改めて発行します。

◆観察会グッズのひとつとして是非持参ください。 編集部 (2013.04版)